

令和6年度第1回鈴亀地域医療構想調整会議 議事概要

- 1 日時：令和6年12月6日（金）19：30～20：25
- 2 場所：県鈴鹿庁舎4階 第46会議室
- 3 出席者：木村委員（議長）、高橋委員、曾我委員、元橋委員、若生委員、水谷委員、北村委員、荒木委員、谷川委員、伊藤委員、青島委員、井上委員、江藤委員、小森委員、もりえい病院 増田院長、富田浜病院 森事務長、四日市徳新会病院 高島院長、村瀬病院 井阪院長、塩川病院 田中理事長、鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院 渡部院長、平山アドバイザー

4 議題

1 病床関係について

- (1) 令和6年度病床機能の現状について（資料1）
- (2) 鈴亀地域における病床の機能分化にかかる支援制度の活用希望について（資料2）
- (3) 北勢医療圏の病床整備について（資料3）

5 内容

1 病床関係について

(1) 令和6年度病床機能の現状について（資料1）

<事務局から説明>

- 医療機関からの病床機能報告と今年度実施したアンケート調査をもとに、県の定量的基準をあてはめた機能別病床数のデータを更新したため、報告する。

<主な質疑等>

なし。

(2) 鈴亀区域における病床の機能分化にかかる支援制度の活用希望について（資料2）

<事務局から説明>

- 鈴亀区域における病床機能分化連携推進事業の活用希望のあった医療機関について協議する。

(3) 北勢医療圏の病床整備について（資料3）

<事務局から説明>

- 北勢医療圏において一般病床と療養病床を合計した基準病床数が既存病床数を上回る状況となったことから、病床整備（増床）に係る意向調査の結果を踏まえ、今後の整備方針について協議する。

<主な質疑等>

- 鈴鹿医療科学大学としては、地域の回復期リハビリテーション病床の不足に応えたい思いと、大学で理学療法、作業療法の実習をするにあたり、実習先を確保したい思いがある。県内で学生の実習先の確保がかなり困難となっており、多くの学生が県外の医療機関

に実習に行っている。次世代の医療スタッフの育成と、地域の医療ニーズに貢献したいという思いがあり、55床という大規模な計画をお願いした。他の病院の増床希望等もあり、今回は増床とならないが、学生の育成や、地域のニーズに応えたいという思いは変わらないので、今後も継続案件として検討いただきたい。

- 今回の転換や増床が実現すると、鈴亀地区からの流出はどれくらい下がるのか。
⇒ 流出割合を現時点で予想するのは困難。今回の転換等を認めていただければ、県としてもその推移については追っていききたい。
- 鈴亀地区から三泗地区への流入が減れば、三泗地区の病床は余ってくると思うが、その結果は、今後の経過を見ながら考えるということか。
⇒ 構想区域内で入院医療を完結することが一つの目標になるので、機能転換後の推移は追っていく必要があると考えている。
- 急性期の病院から遠方の病院へ患者が退院することを考えると、できれば鈴亀地区の中で完結できる医療が理想。
- 急性期病床を急激に減らすと、問題が出る可能性があるので、回復期の動きを見ながら削減を行うことが大事で、急性期がパンクするというリスクがあることをある程度認識しながら行っていった方がいい。
- 最近では訪問診療が進んできて、在宅での安心感が増したことから、入院せず在宅で過ごしていくような形になっている。こういったことで、急性期の逼迫した状況も緩和されると思う。

(資料2及び資料3について、委員全員が了承した。)

以上